

アジアン・ビート（シンガポール編）ラブ・フロム・テマセク (1991)

ASIAN BEAT: LOVE FROM TEMASEK

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 日本／シンガポール

時間 78分

公開情報 劇場未公開・ビデオ発売

【解説】

林海象・企画原案／総合監督のシリーズ第2弾。孤独な日本人トキオは両親の死の謎を解き明かすためシンガポールへやってくる。気の強い現地美女（でもあまり魅力的じゃなく、二昔前の女子大生といった感じ）と知り合い、二人でヒロインが絡む事件の謎を解決して行く。日本とシンガポール二つの国をめぐる歴史的確執を描いたり、“日本人”として生きることを意味を問おうとしたりと、深刻なテーマを織り込もうとする志の高さは理解できるが、それがかえって仇になりブツ切れなストーリー展開となっている。シンガポールという街を楽しむための旅映画としても中途半端でまったく物足りない。印象に残るのは、ひたすら走るトキオのしなやかな姿。それから作中後半で老女が孫娘に語る台詞“自分が信じるものこそが現実になる”、これがこの映画で言いたいテーマなのだろうが、この言葉さえちゃちなキャッチコピーに思えてしまう。それでもかっこいいトキオのために、評価はかろうじて★ひとつ。

【クレジット】

監督	ロー・ベン・リー	
監修	林海象	Kaizo Hayashi
	ロー・ベン・リー	
企画	林海象	Kaizo Hayashi
	ロー・ベン・リー	
製作総指揮	勅使原煌	
原案	林海象	Kaizo Hayashi
	ロー・ベン・リー	
脚本	栗田教行	
出演	永瀬正敏	Masatoshi Nagase
	鰐淵晴子	
	大嶺美香	